

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 37 号

発行日
2024.10. 15
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○長野眞泰草村で思ったこと！「奇跡の村」の行く末は？

昨日(9日)、二泊三日での、長野眞泰草村(NPO法人グリーンウッド自然体験教育センター)への訪問から戻った！ここでは、予定を変更して(そのテーマは次号にて！)、そこで思ったことを、少し述べておきたい(記憶が確かなうちに？)！ただし、その詳しい報告ではない(これについては、別途作成している「新教育協働への道」で行うつもりである！)。要は、ここにある重要な裏メッセージ(あくまでも私がそう思っている？)を、どう受け止めればよいかということである！

同行した7人(NPO/一般社団法人関係6人、個人1人)には、それこそ同じ苦勞？をしているスタッフとの出会いに、大いなる感動と共感を覚える機会となったであろうが、私には、それよりも、そうした事業体(そして、スタッフの思いや活動、否、人生？)が、今後どうなっていくのかということが、一番の関心事となったということである(これまで中核となっていたTさんが、止むを得ない事情で、そこを離れたこともあって！)。本当に、「奇跡の村」とも言える同村ではあるが(これについては、以前にも述べたし、様々な情報提供がある！)、だから学ばべきことは数限りなくあるとしても、その先を考えると、少し不安になるということでもある!!

ひとつづりとまちひとつづりの一体化(循環)が、あるNPO法人の存在と活躍のお陰で見事に表現されていると言え、わけであるが、その法人の行く末によっては、村全体が変質(崩壊?)していくこともあり得る(そして、近い将来の?リニア新幹線駅の誕生によって、隣の中核市/飯田中に包摂されていくかもしれない?)!!一つの生活、そして文化圏域である村が、今後どうなっていくのか?全国等しい問題なのでもある!

○「きまり」について思う!大切なのは、その中身!!

話題としては、かなり唐突(これまた?)ではあるが、ここで、「きまり」について、少しだけ語っておきたい!動機は、上記長野への同行者の一人から聞いていた、「条例」の存在(壁?)からであるが、いったんそういうものが決まる(ある)と、大勢がその規制力に負け(おかしな言い方ではあるが?)、必要な事態の改善に、なかなか繋がっていかないということである!

要は、「守る」ことが優先され、なかなか臨機応変の対応が難しいということであるが、「守る」にしろ、「変える」にしろ、それによって、何が実現させられるかが重要なのである!それ故に、それが等閑視され、守ることだけに力が注がれては、本末転倒なのである!かの憲法改正論議もそうだが、押しつけだからダメだとか、きまりはきまりだからとかいった論議は(例の校則問題もそうだが)、何か本質を忘れたものになっていないか?

とにかく大切なことは、「きまり」は必要!しかし、それが、時代にそぐわない、そしてこれからの人達にとって「幸せ」とならなければ、思い切つて変える!これは、多くの葛藤を生むかもしれないが、等しく同価値な約束事である!!その時その時によって、必要なものにしていくこと!それは、憲法であろうが、条例であろうが(そして、校則であろうが)、すべて同じである!

ちなみに、上記「グリーンウッド」の子ども達は、自らの生活の中に「きまりごと」をつくり(折り合い)、集団を成立させている!最初は大人の誘導であろうが、それを自らのものとしている!!ここが、大切なのだ!

○こんなことがあった!「教育協働」の意義とはこれなのだ!

過日、S県のHさんから、おもしろい(実は深い?)情報提供があった!彼(ら)が、夏休みに行っている事業(〇〇ほんごサマースクール)に参加しているYちゃん(小学4年生?)から、お礼の手紙が届いたそうである!聞くところによると、その手紙は、学級担任から校長へ、校長から、実施主体のコミュニケーションセンターへ、そして、そのプログラム運営のリーダー(コーディネーター)Hさんへと届けられたそうである!

まあ、これだけの話であつたら、普通によくある(新聞等に掲載される?)「心温まる話」となるが、よく聞くと(さらに、〇〇すると)、これは、取りようによつたら、今、かなり懸念される「教員の働き方改革」の負の連鎖?「地域と学校(教師)の連携・協力の縮減傾向」に、再考を促すものとなるのではないかと思、(ここでの話題提供としたいということである!)

どういふことかと言うと、まずは、その手紙が、いわゆる「学校の夏休みの宿題」ではなく(これ自体がなくなっているらしい!)、彼女自身の自主的な提出であつたこと、そして、にもかかわらず、それを受け取った担任教師が、校長に見せ、また、その校長が、その実施主体であるコミュニケーションセンターまで、それを届けているという事実があるということである!おそらく、そこに書かれている内容(事実や感想)に、担任や校長が突き動かされたこと、そして、そのことを、どうしても、コミュニケーションセンターの人達に伝えたかったということである!!

実は、このように、「教育協働」とは、互いに無理をして何かを一緒に行うということではない(もちろん、必要な場合は一緒に行くが!)!互いのやっていることを知り、その成果を、相互に生かし合うことが重要だということである!ちなみに、かつて、コミセンと公民館の違いは何かということが、社会教育側での論議ともなってきたが、最終的にはどちらでもよいのである!大切なのは、そこで働く人達の思いと事業内容(ビジョン)が、実際にどうなのか?そこだけなのである!ましてや、学校教育側にとっては、どちらでもよいのである!その双方の意義やメリットが共有されれば、それでよいのである!(井上)

○政治、経済、教育の「トライアングル」の中で?!

この歳になって、言わば「政治・経済・教育のトライアングル」の見方が、と言うよりは、その構造・関係の意味が分かってきた?ある意味、残念であるが(もう遅い?)、そうである!特に、決戦投票時におけるそれは、劇的できれ気づかせたのが、これもまた、偶々見つけたネット記事である。小幡績という経済学者(K大学教授)の論文で、

「石破政権の誕生は『日本経済正常化』の第一段階だ。タイトルが妙?で、だから最後まで読んでみたわけである!」。

実を言うと、私は、「政治」も「経済」も、基本的には嫌

いである!権力争い、自分達の都合(権益)しか考えていな

い?そしてまた、損得や効率しか考えていない世界(人々

と受け止めてきたわけであるが(現象的には、そのようにしか

見えないので仕方がない?)、教育の世界は、そうした世俗的

な世界(人々)とは違つて、人間の成長・発達や幸せづくり

に貢献する世界(人々)で、可能な限り、その双方からの影

響(圧力)をなくす(排除する)ことが重要だと思つていた

ということである(単純に言えば「聖域」ということだが、現

実はそうではない?その双方からの圧(攻撃?)は凄まじい!!)

とは言え、「政治・経済・教育のトライアングル」は、

私の好悪はともかく、まさに「社会の三要素」であり、そ

れによつて、社会全体、つまり国(家)が成り立っている!

ただし、そこでの「国(家)」というものは、「社会」の一部

ではあるが、それを包摂する「容器」でもある!!そして、

その容器のあり方を規定(論議)するのが、実は「政治」で

ある!しかも、「経済」と「教育」は、その「政治」のプロ

セスを大いに左右する(歴史を見れば明らかである!)!

だから、三者は、分ち難くリンクしているのであるが、

しかし、健全(正常)な社会でなければ、その成果は危う

い!だから、「社会資本(社会関係資本を含む)・主義」が必要

だとも書いてあったが、論としては、まさにその通りであ

ろう!そこに、「教育」がどう位置づくのか?総体としての

教育が学校教育だけではない!、どう見えているかである!

○凄まじい、政治家の執念、駆け引き!

過日の総裁選 そこには、何とも言えない、政治家達の人間模様(凄まじい執念、駆け引き)が繰り広げられたよ

うことである!特に、決戦投票時におけるそれは、劇的でき

れ気づかせたのが、これもまた、偶々見つけたネット記事

である。小幡績という経済学者(K大学教授)の論文で、

「石破政権の誕生は『日本経済正常化』の第一段階だ。タイトル

が妙?で、だから最後まで読んでみたわけである!」。

実を言うと、私は、「政治」も「経済」も、基本的には嫌

いである!権力争い、自分達の都合(権益)しか考えていな

い?そしてまた、損得や効率しか考えていない世界(人々

と受け止めてきたわけであるが(現象的には、そのようにしか

見えないので仕方がない?)、教育の世界は、そうした世俗的

な世界(人々)とは違つて、人間の成長・発達や幸せづくり

に貢献する世界(人々)で、可能な限り、その双方からの影

響(圧力)をなくす(排除する)ことが重要だと思つていた

ということである(単純に言えば「聖域」ということだが、現

実はそうではない?その双方からの圧(攻撃?)は凄まじい!!)

とは言え、「政治・経済・教育のトライアングル」は、

私の好悪はともかく、まさに「社会の三要素」であり、そ

れによつて、社会全体、つまり国(家)が成り立っている!

ただし、そこでの「国(家)」というものは、「社会」の一部

ではあるが、それを包摂する「容器」でもある!!そして、

その容器のあり方を規定(論議)するのが、実は「政治」で

ある!しかも、「経済」と「教育」は、その「政治」のプロ

セスを大いに左右する(歴史を見れば明らかである!)!

だから、三者は、分ち難くリンクしているのであるが、

しかし、健全(正常)な社会でなければ、その成果は危う

い!だから、「社会資本(社会関係資本を含む)・主義」が必要

だとも書いてあったが、論としては、まさにその通りであ

ろう!そこに、「教育」がどう位置づくのか?総体としての

教育が学校教育だけではない!、どう見えているかである!

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕⑦

○改めて、古代九州の全体像を探る―その8―
ところで、改めて、問題の「高良山周辺の状況」であるが、その中心に

なつていたのが、4世紀半ば?突然出現した「貴(木ノ藤)国」ではなか

ったか?そして、その中核が、半島南部で出会つていた(和合していた?)

「木(紀)氏」と「百濟系宗族(藤原系)であったならば、事態

は、よりスムーズに理解され得る?何故なら、「木(紀)氏」である熊襲系

の「松野連系図」に、百濟系宗族と目される「藤原系」の名があるから

である(ちなみに、その「藤原系」の次が、「宋書」に見える「藤原系」

り、以下「藤原系」(武)と続いているわけである(倭の五王!)

もちろん、ここでは、その「松野連系図」の信憑性が問われるわけであ

るが、もしそれが真実であるとすれば、「木(紀)氏」と「百濟系宗族(藤原系)

王族」との関係は、一応了解されるわけである!なお、その「藤原系」

は、かの「仁徳天皇」とされる倭王「讚」の父親であり、「応神天皇」と

された人物ともなる!ただし、これはこれで、その照応が難しい!いずれに

しても、5世紀末まで(倭の五王時代)に、九州(倭国)は、その版図を拡大

し、東(分家・熊襲国)と西(分家・筑紫国)に、それぞれの拠点を置

いたことは間違いない!そう考えると、全体の説明がうまいく!!

しかるに、少なくとも、8世紀初頭までは、本家としての筑紫倭国(元

州王朝)は、歴然と存在していた!ということであり(富都の各地への移動はあ

つた?)、その存在を大きく左右した、かの「百村江の戦い」は、その九州

王朝(本家が主導した)ということである!だが、その敗戦によつて(しか

も大地震も加わつて?)、筑紫倭国(九州王朝)は、壊滅的な状況を迎えた!そ

して、おそらく、それを機に、「大和への集団移住(地名等の相似)」がな

され(先遣隊は、多分上宮王家(蘇我氏?)、他方では、太宰府にて、唐軍の駐

留(傀儡政権の誕生があった?)もちろん、「日記」は、その「東(大和)へ

の集団移住」を為した側から描いた歴史書であるので、当然そういうこと

は記載していない(匂わせてはいるが!)!!(つづく)

〈編集後記〉やつと、待望の?「秋」の気配が、(こ)沖縄でも感

じられるようになった(ただし、まだまだ蒸し暑いが?)!世間(国

内外とも)は、相変わらず大変な様相を示しているが、心ある人

達は、それにもめげず、目の前の課題・難題解決に向けて取り組

んでいる!改めて、報われて欲しいものである! (井上ノ堂本)

・「きまり」は必要!

だが守るだけなら 単なる足枷? 心せよ!

・「奇跡の村」 訪ねてみれば転換点?

生むと続くは 時代の綾?

・「短歌に託して」秋、到来!物想う時でもある!!

・「さりげなく示される」「教育協働」の意義・成果!

その発見こそが 社会を変える!!

・政治・経済・教育のトライアングル!

良き社会の要たれ! だが、それを誰が?

・凄まじい執念、駆け引き!

そは何のため? 社会のためもあること願う!